

I'd like to hear music always played as beautifully as you play.

フィルハーモニア・カルテット ベルリン

熊本公演

ベルリンフィル最高の4人組!

Program

モーツァルト: 弦楽四重奏曲第15番ニ短調K.421

[ハイドン・セット第2番]

シューマン: ピアノ五重奏曲変ホ長調Op.44

(ピアノ/エヴァ・ポプウォツカ)

ブラームス: 弦楽四重奏曲第3番変ロ長調Op.67

*曲目は一部変更となる場合がございます。



あなたがたの演奏ほど美しい音楽をいつも聴いていたい。 ユーディ・メニューイン卿

PHILHARMONIA QUARTETT BERLIN

ピアノ エヴァ・ポプウォツカ

2010年1月23日(土) 熊本県立劇場コンサートホール 開場:17:00 開演:18:00

S席一般 5,800円 S席学生 3,000円 / A席一般 5,000円 A席学生 2,500円 各税込

[お問合せ] RKK公演情報係 TEL.096-328-5525 (平日10:00~17:00)

熊本交通センタープレイガイド / 鶴屋東館地下プレイガイド / 熊日プレイガイド / 大谷楽器 / 熊本県立劇場 / オフィス・ムジカ (TEL096-355-7315)
チケットぴあ (Pコード:328-423 ファミリーマート サンクス他) [予約] (TEL0570-02-9999/要Pコード)
ローソンチケット (Lコード:83359 交通センター ローソン他) [予約] (TEL0570-084-008/要Lコード)
主催: RKK熊本放送 後援: 熊本日日新聞社



第51回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第27回

平成21年12月20日(日)午後6時15分

熊本県立劇場コンサートホール

主催 / 熊本県民第九の会・熊本県文化協会

共催 / (財)熊本県立劇場

後援 / NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM79.1

びっころシート協賛企業 / (株)肥後銀行・南九州コカ・コーラボトリング(株)・レストラン七彩・熊本いいくに会・九州電力熊本支店



熊本県知事

蒲島郁夫



熊本県立劇場館長

葉山完治



熊本県文化協会会長

小堀富夫



熊本県民第九の会実行委員長

神田一伸

第27回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

「第九」演奏会は、昭和57年に熊本県立劇場のこけら落としとして初演されて以来、「熊本県民第九の会」の皆様のご尽力により27回目を迎え、熊本の1年を締めくくる県民手づくりの演奏会として定着しているところです。四半世紀にわたる皆様の取組みに対し、深く敬意を表します。

今回、合唱団としてステージに立たれる300名余の皆さんは6月の公募により選ばれ、今年初めて参加される方も40名を超えたと伺っています。9月から毎週練習を重ねられ、11月には今回指揮者としてお迎えした現田茂夫さんも、指揮にあられたと聞いております。

指揮の現田さんをはじめ第一線で活躍の4人のソリストの方々、熊本交響楽団の素晴らしい演奏、そして混声4部合唱の迫力ある「歓喜の歌」すべてが一つとなり、コンサートホールに響きあうことでしょう。参加の皆様と客席の皆様に感動と活力をもたらす素晴らしい舞台となることを心から願っております。

県立劇場の歩みとともに活動を続けられている「熊本県民第九の会」の皆様におかれましては、今後とも県民一体となって創り上げてこられた「第九」演奏会の伝統を受け継がれ、本県の文化の発展と元気づくりにご協力いただきますよう、よろしく願います。

最後に本日の演奏会のご盛会と、本日ご参集の皆様のご活躍をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

今年も、年末恒例の「第九」の季節が巡ってまいりました。熊本県民第九の会の演奏会も、27回を数えます。この「ベートーヴェン第九」は、熊本県立劇場の創立とともに始まったものです。27年の長きにわたって共に歩んできた唯一の演奏会で、県立劇場にとっても、極めて大切な演奏会です。

公募による合唱団の人は変わっても、熊本の音楽を愛する人達に支えられ、年々パワーアップしていることは、心強いกำลังใจです。

今年も、指揮者に国際的にも活躍中の現田茂夫さんをお迎えします。また、ソプラノには熊本市出身で、この「第九」や県劇の記念事業などにもソリストとして活躍頂いた三縄みどりさんにご出演いただくなど、ソリストも内外で高い評価を受けている方々が揃いました。熊本交響楽団の演奏と相和して、素晴らしい演奏会になるものと楽しみです。

さて、今年も、この「ベートーヴェン第九」に関連して、嬉しいニュースと悲しいニュースがありました。一つは、この「第九」を2回にわたって指揮した山田和樹さんが、9月にフランスで開かれた「プザンソン国際指揮者コンクール」で、見事に優勝しました。一方、「県民第九の会」の発足に関わり、長く実行委員長をつとめられた草刈秀克さんが、8月に逝去されました。

こうした「喜び」と「悲しみ」を踏まえながら、今宵、コンサートホールに高らかな歌声が響き渡り、熊本県民第九の会の演奏会に新たな力強い伝統が育まれることを、お祈りしたいと思います。

今年も「熊本県民第九の会」の演奏会の日がきました。熊本県立劇場の落成を記念して始まったこの演奏会も今年で27回となり、すっかり年末の恒例の行事として定着しました。

ただ残念な事は、この演奏会のための実行委員会をされていた実行委員長の草刈秀克さんが今年の8月19日にお亡くなりになり姿を見せて頂けません。ご冥福をお祈り申し上げます。後任は神田一伸さんが引き継がれました。草刈さんの遺志を継ぎ演奏会の成功につとめられると思います。委員会も現在にいたるまで多くのご苦勞があったようですが、今後とも宜しく願います。

演奏は最初から「熊本交響楽団」が担当されていますが、合唱は一般から公募された「熊本県民第九の会合唱団」が担当されており、今年もおおよそ300名が参加されています。

今回までのべ8,000人近くの方が県立劇場で声高らかに「歓喜の歌」を歌っておられます。

熊響・合唱団とも始まった時から参加している方も多くなり嬉しい限りです。

今回は指揮に現田茂夫さん、ソリストに三縄みどり（ソプラノ）、加納里美（アルト）、樋口達哉（テノール）、堀内康雄（バリトン）の方々に出演していただき、素晴らしい演奏会になるだろうと期待をしています。

会場にお出かけ頂いた皆さまに感謝申し上げますと共に、今後のご支援をお願いいたします。

昭和57年（1982）、熊本県立劇場の柿落としで始まった熊本県民第九の会、毎年欠かさず続いて今年で27回目の演奏会になります。年末のお忙しい時期、聴きにきてくださる皆様方には本当に心より御礼申し上げます。

27回目の演奏会ですが、今年には特別な思いで演奏会に臨んでいます。去る8月に前実行委員長の草刈さんに代わり実行委員長を仰せつかりました。今年の演奏会の準備はほとんど前委員長がルールを練って下さいました。何事にも、謹厳実直で我々を知らぬ間に、演奏会の方へと導いてくれる。マネージメントのプロフェッショナルでした。「県民第九」の名に恥じない演奏会をというのが口癖でした。この言葉を胸に刻んで今後も県民第九の会を続けてゆく所存です。宜しくお願い申し上げます。

さて、ベートーヴェンの第九は、学生時代から始めてほぼ毎年ステージに立ってきました。何度も何度も歌っていると現れては消えてゆくその旋律に、はるか昔、ベートーヴェンがどのような思いでこのフレーズを口ずさんだのだろうか？どのような気持ちで、境遇でこのハーモニーを感じたのだろうか？と色々な思いを引き起こさせてくれます。無心で演奏していると見えなかったものが見えてくる、音楽は自分にとって本当に不思議な力を与えてくれます。「Muss ein liebeler Vater whonen」と歌うところで、何故か何かに包まれて体が温くなるのです。

最後になりましたが、熊本県文化協会、熊本県立劇場はじめ多くの皆様方からご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。ごゆっくりお楽しみください。

指揮 現 田 茂 夫
独 唱 ソプラノ 三 縄 み どり
 ア ル ト 加 納 里 美
 テ ノ ー ル 樋 口 達 哉
 バ リ ト ン 堀 内 康 雄
合 唱 熊 本 県 民 第 九 の 会 合 唱 団

合唱指揮 平 和 孝 嗣
 工 藤 勇 壹
 松 岡 聡
ピアノ 古 閑 恵 美
 星 子 眞 澄
 林 原 ゆ り
 川 辺 里 美
 隈 部 文

管 弦 楽 熊 本 交 響 楽 団



(C) K.MIURA

指揮 現 田 茂 夫 (げんた しげお・Shigeo Genda)

東京生まれ。東京音楽大学指揮科で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京芸術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。86年、二期会オペラ「ヘンゼルとグレーテル」でオペラ・デビュー後、「こうもり」等、二期会オペラで活躍する一方、オーケストラコンサートでも実績を積む。87年、新星日本交響楽団指揮者に就任。88年、来日中のドレスデン・フィルに客演したのをはじめとして、国内外を問わず主要オーケストラを指揮し、好評を得ている。90年、新星日響とヨーロッパ演奏旅行。同年、ウィーン国立歌劇場に国費留学。91年スロヴァキア・フィルに客演。92年、プラハ国立歌劇場日本公演の指揮者として客演。同年、プラハ交響楽団の定期公演に初登場し、翌年、「プラハの春」での「佐藤しのぶリサイタル」は、センセーショナルにヨーロッパで放送された。チェコを始めとして、イタリア、ドイツ等での客演も多い。13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年4月より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストとも数多く共演し好評を得ている。また、世界的チェリスト故ムスティスラフ・ロストロポーヴィチと03年12月及び04年10月皇后陛下の古希祝賀コンサートで共演し好評を博した。オペラ指揮者としても経験豊かで、94年「フィガロの結婚」(東京、広島)、「ラインの黄金」(関西二期会)、95年「チャルダッシュの女王」(東京二期会)、96年「ドン・ジョヴァンニ」(文化庁オペラ研修所)、「フィガロの結婚」(東京二期会)、「魔笛」(同)、「佐藤しのぶドラマチック・リサイタル」(全国ツアー)、97年「ワルキューレ」(関西二期会)、98年「ナクソス島のアリアドネ」(関西二期会)、2001年夏には「夕鶴」のウズベキスタン/カザフスタン/東京公演、02年「天守物語」(関西二期会)、04年秋にはブラチスラヴァでスロヴァキア国立歌劇場の「椿姫」を指揮し、さらに10月同日本公演でも好評を博した。02年から錦織健プロデュースオペラの音楽監督も努め、「コシファン・トゥッテ」、04年「セビリアの理髪師」、06年「ドン・ジョヴァンニ」、09年「愛の妙薬」全国公演。05、08年には栗山民也新演出「夕鶴」の全国公演を行っている。また、アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール(イタリア/トレント)の審査員として毎回招待されている。2000年4月から3年間、NHKの「FMシンフォニー・コンサート」のパーソナリティを務めるなど、バラエティにとんだ活動を行なっている。



平成20年12月21日(日)《第26回熊本県民第九の会演奏会(指揮=澤 和樹)》

三縄 みどり(みなわ みどり)

ソプラノ



熊本市出身。東京藝術大学卒業、同大学院オペラ科修了。1988年よりイタリアへ短期留学を重ねる。木村宏子、疋田生次郎、畑中更予、マリア・カルポーネ、クララ・スカランジェッラ、ニコラ・サンティエーニの各氏に師事。「ラ・ボエーム」「フィガロの結婚」「カルメン」「神々の黄昏」「椿姫」「トスカ」「ドン・ジョヴァンニ」等数多くのオペラに主演。アンドレ・プレビン作曲「欲望という名の電車」日本初演ではステラを歌い好評を得る。オペラコンサートでは、「妖精」「恋愛禁令」「ファルスタッフ」等を歌い高い評価を受ける。シュタイン、ホリガー、フルネ、コミッショナー、エッシェンバッハ、秋山和慶、若杉弘、高関健、井上道義など内外の著名な指揮者のもとNHK交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、京都市交響楽団、札幌交響楽団ほか各地のオーケストラと共演。ベートーヴェン「第九交響曲」、マーラー「千人の交響曲」、ハイドン「四季」、ブルックナー「ミサ曲」、バッハ「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、フォーレ「レクイエム」などのソリストとして活躍。現代曲にも意欲的に取り組み、プリテン「イルミナシオン」、シェーンベルグ「月に憑かれたピエロ」なども上演。テレビやFMにも出演し、歌曲リサイタルも各地で開く。CD「悲歌」「中田喜直を歌う」に参加、「ひとりぼっちがたまらない」「中田喜直歌曲集」、新美徳英「白いうた青いうた」を鮫島有美子、青山恵子とリリース。二期会会員、日本演奏家連盟会員、横浜シティオペラ会員、東京藝術大学講師。

加納 里美(かのう さとみ)

アルト



東京音楽大学卒業、同大学研究生オペラコース修了。成田繪智子、福澤アクリヴィ、滝沢三重子の各氏に師事。86年文化庁芸術家国内研修員。関西日仏音楽コンクール第1位入賞。同年、文化放送音楽賞受賞。第4回日仏音楽コンクール第2位入賞。第57回日本音楽コンクール声楽部門第3位入賞(1位なし)。86年二期会公演「ワルキューレ」のシュヴェルトライテでオペラデビュー。以後、「椿姫」「魔笛」「フィガロの結婚」「ヘンゼルとグレーテル」「アイダ」(演奏会形式)等に出演し、表情豊かな張りのある声で高評を博した。97年東フィル・オペラコンチェルトシリーズ、大野和士指揮「ピーター・グライムズ」、「イエヌーファ」に出演。新国立劇場へは99年以降、「罪と罰」「イル・トロヴァトーレ」「ヘンゼルとグレーテル」「シャーロック・ホームズの事件簿」「ねじの回転」「外套」等に出演。05年8月には、日本初演日生劇場オペラ「アラジンと魔法のランプ」08年8月「ジャンニ・スキッキ」9月二期会公演「エフゲニー・オネーギン」に出演。また、ベートーヴェン「第九」、マーラー交響曲第二番「復活」、第八番「千人の交響曲」、ヴェルディ「レクイエム」等にソリストとして出演。07年9月、東京音楽大学創立100周年記念オペラ公演「フィガロの結婚」にマルチェリーナで出演。東京音楽大学教授、二期会会員。

樋口 達哉(ひぐち たつや)

テノール



福島県出身。武蔵野音楽大学卒業。同大学大学院修了後、ミラノに留学。リクルート・スカラシップ獲得。E・カルソー国際声楽コンクール最高位(ミラノ)、ブダペスト国際オペラコンクール第三位等、受賞歴多数。'98年ハンガリー国立歌劇場「ラ・ボエーム」ロドルフォ役でヨーロッパデビューを果たし、'99年にはミラノ・スカラ座に出演。その他、メトロポリタン歌劇場管弦楽団、モンテカルロ・フィルハーモニー交響楽団、キューバ国立交響楽団等と共演。国内に於いても、新国立劇場「トスカ」、「蝶々夫人」、「カヴァレリア・ルスティカーナ」、「ファルスタッフ」等、大役を演じ常に好評を博す。05年には日生劇場「夕顔」与ひょう役で新境地を開拓。さらに07年の東京二期会「ダフネ」では演出意図を見事に具現化した歌唱と演技で新聞紙上でも絶賛される。続く東京二期会「仮面舞踏会」、08年「エフゲニー・オネーギン」、09年「La Traviata(椿姫)」、「蝶々夫人」といずれも高い評価を得る。コンサートにおいても「第九」等のソリストはもとより、NHKニューイヤー・オペラコンサート、NHK・FM名曲リサイタル等で活躍。輝きのある声と華を持つ旬のテノールとして多くのファンを魅了している。二期会会員。武蔵野音楽大学講師。2010年7月二期会「ファウストの劫罰」にタイトルロールで出演予定。

堀内 康雄(ほりうち やすお)

バリトン



慶應義塾大学法学部卒業。第21回イタリア声楽コンクールでミラノ大賞を受賞し、91年ミラノ・ヴェルディ音楽院へ留学。第39回トゥールーズ国際声楽コンクールで優勝。94年ヴェネツィア・フェニーチェ座の「ラ・ボエーム」でデビュー後、ローマ歌劇場、ブッセート・ヴェルディ・フェスティバル、リスボン・サン・カルロス国立劇場、ハンガリー国立歌劇場、アテネ国立劇場、スペイン・ビルバオ・オペラ、マラガ・セルバンテス劇場でのオペラや、イタリア国立放送管弦楽団、アリーナ・ディ・ヴェローナ管弦楽団、ポーロニャ歌劇場管弦楽団、スペイン国営放送交響楽団、スウェーデン・マルメ歌劇場、パルマ王立劇場等での演奏会に出演している。97年藤原歌劇団の「椿姫」で日本デビュー。以後、同歌劇団を中心に新国立劇場、びわ湖ホール、ラ・ヴォーチェ、愛知県芸術劇場、大阪国際フェスティバル、津山国際総合音楽祭、北海道二期会等に出演。また読売日本交響楽団、新日本フィル、日本フィル、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィル、札幌交響楽団、フランス国立放送フィル、NHKニューイヤーオペラコンサート(2000~2002・2007~2009年)等の各種演奏会に出演。日本デビュー10年目の2007年に、紀尾井ホールと軽井沢大賀ホールでリサイタルを行った。第2回五島記念文化財団オペラ新人賞、第25回ジロー・オペラ賞受賞。藤原歌劇団団員。ミラノ在住。



平和孝嗣

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁オペラ研修所入所（第一期生）。ウィーン国立音楽大学卒業（オーストリア政府給費留学）。これまで21回のリサイタルをはじめ、多くのオペラやコンサートに出演。また、九州でのさまざまな音楽コンクールの審査員も務めている。熊本を中心として、東京やドイツ、ウィーンでもリサイタルを開催。今年5月27日には東京文化会館小ホールでリサイタルを行い好評を得た。現在、熊本大学教育学部教授。



工藤勇壹

国立音楽大学声楽家卒業。7年間、二期会合唱団に所属し数多くのラジオ、テレビ、オペラなどに出演。昭和49年より九州女学院高等学校に勤務し、九州女学院合唱団の指揮者として熊本県代表、九州代表へと導いた。現在、碩台公民館合唱サークル、ルーテルマミーコール、フリーデ・コール、デメテル男性合唱団指揮者、熊日学生音楽コンクール審査員、NHK全国学校音楽コンクール審査員、高文連音楽コンクールの審査員などを務める。



松岡 聡

宮崎音楽教育学部特設音楽声楽科卒業。1988、89年の夏、オーストリア、モーツァルテウム音楽院にて、G.スゼー氏のマスタークラスを受講。88年に初めてのフランス歌曲によるリサイタルを開催した。平成8年から熊本県民第九の会の合唱指揮を務める。昨年は合唱指揮とあわせて、バリトンのソリストとしても演奏に携わった。現在、菊池市立泗水中学校に勤務。

1. 序曲「献堂式」八長調 作品124
ベートーヴェン

2. 交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

- 第1楽章 Allegro ma non troppo, un poco maestoso
- 第2楽章 Molto vivace
- 第3楽章 Adagio molto e cantabile
- 第4楽章 FINALE

ピアニストのプロフィール

古閑恵美

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。数多くの演奏会にソリストとして出演する一方、著名な器楽奏者や声楽家などとピアニストとして共演。合唱ピアニストとしてトップレベルの合唱団から招かれる。現在中九州短期大学、熊本学園大学講師、九州公私立大学音楽学会会員。



星子眞澄

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。オーストリア・ウィーン私立プライナーコンセルヴァトリウム2期修了。国立音楽大学卒業演奏会、熊本県新人演奏会、西日本新人演奏会に出演の他、3回のソロリサイタルを行う。現在、ルーテル学院大学兼任講師



林原ゆり

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会等に出演。ソロ・デュオコンサート開催。合唱・声楽・器楽等の伴奏ピアニストとして活動している。現在、櫛古城ピアノピアノ講師。



川辺里美

熊本大学教育学部音楽科卒業後、福島大学大学院教育学研究科音楽教育専修修了。Van Vertコンサート、NHK美術館コンサート等に出演。アンサンブルピアノのタペ、フランス音楽のタペなどを開催。大阪音楽国際音楽コンクール連弾部門入選。現在、コーロフィオーレ伴奏者。



隈部 文

国立音楽大学教育音楽学科リトミック専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会などに出演。現在、平成音楽大学講師、熊本YMCA学院講師、コール湖東ピアニスト、玉水保育園、熊本聖母愛児幼稚園リトミック講師、リトミック研究センター熊本支局指導スタッフ。



ご挨拶

草刈 登喜代



故 草刈秀克氏

本日は第27回第九演奏会にお越しいただきありがとうございます。生前主人は、第九の会が26年も続けてこられたのは「年末には第九を聴かないと…!」と、毎年来てくださるお客様のおかげだと感謝いたしておりました。合唱

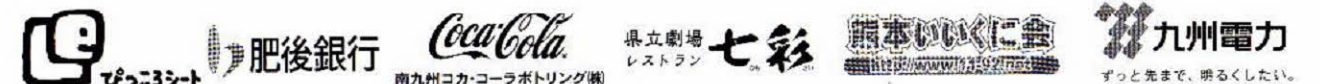
団の皆さんには「いい演奏が出来る様に一回一回の練習を無駄にせず頑張ってほしい。そのためには、自分はどんなことでもします」と語りかけ、裏方の仕事に励んでおりました。音楽が大好きで、そして何よりも音楽を通じて出逢う人とのつながりを大切にしていた主人でした。晩年は、第一筋で熊本県民第九の会の活動が生きがいった様に思います。

今年も、指揮者の現田先生を始めソリストの先生方にお逢い出来るのを楽しみにいたしておりましたが、思うように病が快復せず『自分が先生方をお願いしておきながら、その場に居ないのが申しわけない』とお詫びの手紙をしたためておりました。願いが叶うものなら、今年の演奏会までは自分の手で最後までやり遂げたかっただけでしょうが、27回目の演奏会に向けて第九の会が始動し始めたのを見届けると、安心して静かに旅立ちました。

今夜は、主人も会場のどこかで聴いていることと思います。

皆様もどうぞ最後までゆっくりと第九の演奏をお楽しみください。

本当に、長い間ありがとうございました。



熊本県立劇場では、ふだん舞台芸術にふれる機会の少ない子ども達を招待する制度（びっころシート）を実施しております。この公演では、上記各企業のご協賛により子ども達を招待いたしました。

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

バリトン独唱

おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう！

バリトン独唱・合唱

歓びよ、神々のうるわしい輝きよ！
楽園の娘らよ！
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう！
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

四重唱・合唱

大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情を勝ち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え！
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば！
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい！

四重唱・合唱

すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルピムは、神の御前立つ。

テノール独唱・男声合唱

歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

合 唱

たがいに手をとり合おう、億万の人々よ！
この口づけを、全世界にあたえよう！
同朋（はらから）よ、星のあなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか？億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか？世界の民よ。
星空のあなたに、王をさがし求めよう！
星たちのうえに、主は住み給うのだ！

1. 序曲「献堂式」八長調 作品124

ベートーヴェン

ベートーヴェン（Ludwig van Beethoven
1770-1827）は元来オペラの作曲を余り得意とせず、
生涯で残したオペラは、「フィデリオ」が唯一のもの
である。ベートーヴェンはこの「フィデリオ」が初演さ
れる際に「レオノーレ」序曲第1番を作曲し、再演され
るたびに第2番、第3番と改訂を行い、最後に「フィデ
リオ」序曲を作曲し、このオペラのために全部で4曲
の序曲を書いた。このオペラのための序曲の他、劇音
楽への序曲は、「献堂式」をはじめ「コリオラン」や
「エグモント」など5曲を数え、バレエ音楽「プロメ
テウスの創造物」のための序曲が1曲、独立した序曲
として「命名祝日」が1曲と、全部で11曲にのぼる。

序曲「献堂式」八長調作品124は、1822年、ウィ
ーンのヨーゼフシュタット劇場が改築され、その落成
記念と、皇帝フランツ2世の命名日の祝典を兼ねたお
祝いに上演された祝典劇のために作曲されたものであ
る。この序曲は、1820年台に作曲された序曲として
は唯一のものであり、晩年の大作である「荘厳ミサ」
二長調作品123と「第9交響曲」二短調作品125と前
後して書かれたという点においても、きわめて注目す
べき存在をなしているもので、ベートーヴェンの円熟
期の作品であるだけに、壮大な祭典にふさわしい堂々
とした曲調を誇っており、喜ばしい気分が全曲を通し
て横溢している。

曲は、第1部、マエストロ・エ・ソステヌート
の序奏と第2部、アレグロ・コン・プリオの主部から
なる。第1部の序奏は、堂々としていて壮大な祝典を
予告する和音の強奏にはじまる。つづいて弦楽器のピ
チカートにのって木管楽器が行進曲風な旋律を奏する。
これはしだいに盛り上がり、やがて全合奏へと発展す
ると、やがてトランペットがティンパコとファゴット
を伴ってファンファーレを高らかに奏すると、弦楽器
と管楽器との間に応答が交わされながら主部の主題が
予告されていく。

主部では、ファゴット、オーボエ、それに第1ヴァ
イオリンにより主題が呈示され、対旋律がクラリネット
と第2ヴァイオリンによって奏され、それらをワー
ガの主題として自由な2重フーガが展開されていく。
そこにはかなり多様な技法が駆使されており、ベ
ートーヴェンの数ある序曲の中ではきわめてめずらしい展
開をみせる。最後は壮大なクライマックスを築き上げ、
力強いコーダとなる。

2. 交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする
八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目
の交響曲に書手した。

1793年、ボンのフィツェニヒは、シラー夫人の手紙
で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう
…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボン
にいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作
曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベ
ートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。この
ことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、
消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよ
に実現することになった。そして1823年から24年にか
けて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に
寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じ
つに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神
の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な
精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもの
で、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は
当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や
大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の
三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルントナートア
劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、こ
の曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。
ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、
実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間
に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉
大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が
起った。特に終曲が終わったとき、成功は決定的となつた。
満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。し
かし、耳の間こえないベートーヴェンは聴衆を背にして
ボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーが
かれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初め
てこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたと
いう。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍
手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出
させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、
警官があわてて聴衆を制したという。

〔第一楽章〕Allegro ma non troppo, un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しょうぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第1主題の部分まじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「飲みの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第2主題は、この向主題にもとづく由田な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななため方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕FINALE

第1呈示部=まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部=この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部=やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わせられて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ=曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。



ウィーンの郊外ハイリゲンシュタットに建てられたベートーヴェンの胸像

Soprano
(ソプラノ)

阿部 奈津子
大村 由美
名島 由希子
濱野 みち代
本庄 絹子
井芹 順子
伊藤 千恵子
片岡 仁美
久保田 雅子
杉 輝子
園田 扶美
高岡 久美子
橋口 博子
畑本 なおみ
三島 多恵子
光延 美知恵
宮崎 佳代子
石橋 美恵子
岩木 恵子
小山 静子
吉良 久子
黒木 紀子
古城 久美子
永田 桂子
永松 信子
濱田 洋子
吉武 信子
相川 久仁子
池田 三千代
稲岡 福子
上村 貴世
大溝 逸子
岡沢 康子
小野 順子
梶原 紀久子
川田 幸子
川部 恵子
工藤 たみ子
隈部 文
蔵元 由美子
小島 淑子

佐藤 淑子
沢田 和代
島野 苓子
杉本 由美子
高森 さつき
武田 尚子
谷口 登紀子
近田 綾子
津留 恭子
寺澤 孝子
中村 えみ子
服部 敬子
春田 香子
東 恵子
福田 睦子
藤田 悦子
前田 真弓
前田 弥生
松川 干晶
松村 紀子
松門寺 阿古
松山 テル子
宮本 奈都美
宮本 はつみ
村上 実枝子
矢住 八ツノ
山本 美穂子
横田 味詠子
吉 富 ちとせ

Alto
(アルト)

佐藤 加代子
園田 松枝
高濱 左衛子
田辺 裕子
鶴池 千佳子
中武 奈津子
名島 和美
西山 晶子

早川 陽子
平田 京子
深水 美穂
三宅 恵美子
山崎 晴美
大塚 裕子
小澤 弘子
木下 由美子
品川 あかつき
白石 美保子
鶴園 葉子
錦戸 美奈子
野田 信代
橋本 奈緒
平井 幸江
廣田 邦子
本田 美加
南 浩子
山道 きよの
吉野 早枝子
米村 光子
若槻 スミ子
石原 昌子
牛島 絹子
大内田 悦子
北野 美栄
栗崎 博子
佐藤 美由紀
芝原 登美
高木 裕子
田島 幾子
中川 さよ
濱田 敏子
愛甲 訓子
伊佐 真理子
伊藤 律子
井野 亮子
今井 堯子
岩坂 美紀子
上野 祐子
江崎 恭子
大久保 庸子
大塚 喜久子
大塚 幸子

大堂 喜三子
緒方 満喜子
沖米田 恵子
小田原 純子
小山 千工
小山 智子
桂 洋子
金澤 久美
加茂 千枝子
川上 喜久子
川崎 節子
菊池 吟子
北原 雅子
木原 美智代
清川 光乃
草刈 登喜代
工藤 敏代
倉岡 睦
栗崎 峯子
古賀 紀久子
後藤 佳子
斉藤 恵子
坂本 峯子
深水 亜希子
藤川 美幸
松永 ぎん子
水野 和子
三村 ムツ工
村上 早智子
重村 節子
柴田 道子
下田 和代
白石 奈央
杉本 弘子
高比良 栄子
田北 真理
竹下 敬子
竹田 綾子
田中 千勇子
田中 倫子
田上 冷子
玉井 了子
塚本 和子
辻 幸子

内藤 邦子
中垣 紀実恵
中野 俊子
長橋 葵
中村 良子
中山 弘子
西村 侑里子
橋口 泰子
馬場 美也子
浜田 由美子
樋口 弓子
平井 実子
平野 玲子
廣田 節子
福島 邦子
藤島 美枝
藤田 美代子
藤本 恵子
藤原 美智子
船越 絹代
古谷 道子
星崎 文代
前田 喜久代
牧嶋 喜代子
正木 恒子
益田 裕子
益田 留美子
松尾 留美子
松村 恵美子
峯田 道子
宮辺 浩子
宮本 裕子
村上 博子
森 敬子
森 幸子
森 扶美代
安田 美喜子
柳田 恵子
山下 富江

第1回 昭和57年12月28日(火) 前座曲:越天楽(雅楽)(近衛秀麿編曲)



指揮/山田 一雄



独唱/新 圭子



木村 宏子



伊豆野 修



高橋 修一

第2回 昭和58年12月11日(日) 前座曲:楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/大友 直人



独唱/高見久美子



岡 ますみ



大野 光彦



柴田 啓介

第3回 昭和59年12月27日(木) 前座曲:弦楽のためのアダージョ 作品11(バーバー作曲)



指揮/山岡 重信



独唱/中沢 桂



木村 宏子



板橋 勝



池田 直樹

第4回 昭和60年12月25日(木) 前座曲:序曲「レオノーレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/ワタベケンイチ



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



伊達 英二



中村 邦男

第5回 昭和61年12月27日(火) 前座曲:トッカータとフーガ 二短調(J.S.バッハ作曲/スコフスキー編曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/津下美奈子



木村 宏子



鈴木 寛一



芳野 康夫

第6回 昭和62年12月26日(土) 前座曲:「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/中沢 桂



木村 宏子



近藤 伸政



栗林 義信

第7回 昭和63年12月25日(日) 前座曲:序曲「コリオラン」八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/三縄みどり



木村 宏子



鈴木 寛一



平野 忠彦

第8回 平成元年12月24日(日) 前座曲:「プロメテウスの創造物」序曲 作品43(ベートーヴェン作曲)



指揮/小松 一彦



独唱/秋山恵美子



木村 宏子



成田 勝美



高橋 啓三

第9回 平成2年12月23日(日) 前座曲:「ロザムンデ」序曲 作品26(シューベルト作曲)



指揮/初山 和明



独唱/山田 綾子



木村 宏子



大野 徹也



福島 明也

第10回 平成3年12月23日(月) 前座曲:「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/西森 由美



木村 宏子



田中 誠



宮原 昭吾

第11回 平成5年12月23日(木) 前座曲:楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/河添富士子



春日 成子



小林 彰英



栗林 義信

第12回 平成6年12月25日(日) 前座曲:「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/岩永 圭子



妻鳥 純子



齋場 知昭



勝部 太

第13回 平成7年12月24日(日) 前座曲:モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618(モーツァルト作曲)



指揮/金 洪才



独唱/西森 由美



妻鳥 純子



大島 博



大島 幾雄

第14回 平成8年12月23日(月) 前座曲:カンタータ第147番よりコラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147(J.S.バッハ作曲)



指揮/本名 徹二



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



瀬戸口 浩

第15回 平成9年12月21日(日) ※序曲「コリオラン」八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/志岐由理子



妻鳥 純子



牧川 修一



小川 裕二

第16回 平成10年12月20日(日) 前座曲:序曲「レオノレ」第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



岩森 美里



井ノ上 了史



瀬戸口 浩

第17回 平成11年12月19日(日) 前座曲:「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/レオ・クレマー



独唱/水野 貴子



青山智英子



持木 弘



松本 進

第18回 平成12年12月23日(土) 前座曲:歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 覚



大島 幾雄

第19回 平成13年12月23日(日) 前座曲:歌劇「魔弾の射手」序曲(ウェーバー作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/佐々木典子



青山智英子



井ノ上 了史



松本 進

第20回 平成14年12月22日(日) 前座曲:なし



指揮/松尾 葉子



独唱/三縄みどり



杉野 麻美



米澤 傑



瀬戸口 浩

第21回 平成15年12月21日(日) 前座曲:喜歌劇「こうもり」序曲(J.シュトラウス作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



米澤 傑



松本 進

第22回 平成16年12月26日(日) 前座曲:「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/大山平一郎



独唱/安藤赴美子



一色 礼子



五十嵐 修



木村 俊光

第23回 平成17年12月25日(日) 前座曲:序曲「コリオラン」 八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



大間知 覚



佐久間 伸一

第24回 平成18年12月24日(日) 前座曲:歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/西森 由美



岩森 美里



井ノ上 了史



小川 裕二

第25回 平成19年12月23日(日) 前座曲:混声合唱のための「うた」から(武満徹作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/佐々木典子



加納 里美



井ノ上 了史



佐野 正一

第26回 平成20年12月21日(日) 「エグモント」序曲ヘ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/澤 和樹



独唱/松本美和子



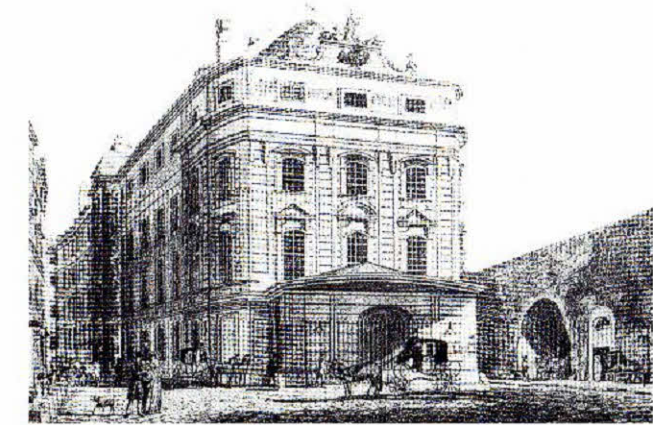
山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡



ベートーヴェンの第九交響曲の初演が行われたウィーンのケルントナーア劇場